

VDIもクラウドへ。「Workspot」が高コストで複雑な従来型VDIの呪縛から解放します。

大きなポテンシャルを持ちながら、そのコストと複雑さのために今一つ普及の進んでこなかったソリューションとして仮想デスクトップ(以下、VDI)があります。今、ハイブリッド型次世代VDIソリューション「Workspot」の登場により、その認識が大きく変わろうとしています。

複雑な技術層をクラウドに移行することにより、驚くほどシンプルにVDIが開発できるようになりました。来日したWorkspot, Inc. マーケティング担当副社長 ブラッド・ピーターソン氏に話を伺いました。



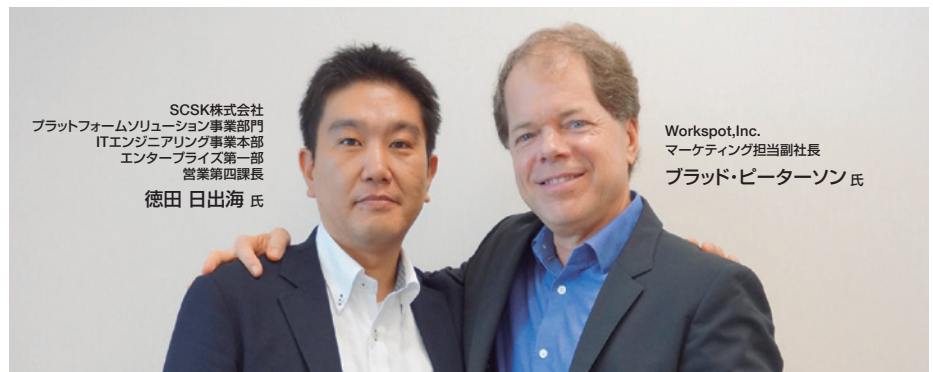
設立: 2012年8月1日
本社: 米国カリフォルニア州クパティーン
CEO: Amitabh Shinha
概要: 仮想デスクトップ(VDI)の管理コンポーネントをクラウドサービス化することにより、従来の複雑なVDIアーキテクチャを驚くほどシンプルに変える革新的ソリューションを提供しています。



VDIは大きなポテンシャルを持つソリューション

VDIが特に大きな効果を発揮するのが、セキュリティやコンプライアンス遵守の側面です。ローカルデバイスにデータを保持しないため、企業に多大な損失を与える情報の紛失や漏えいというリスクを防ぐことができます。そればかりではなく、機密情報や膨大なデータを扱いつつも在宅勤務の実現をめざす企業、また分散型コールセンターやBYODを展開したいと考える企業にとって、VDIは実現のカギでした。物理的な距離にしばられることなく、日本中・世界中から優秀な人材を雇い入れ、いかに実力を発揮してもらいたい、というときにもVDIは大きな助けになります。

を"VDI 1.0"と呼んで、このように語ります。「実は、私はVDI 1.0の推進者であるCitrixでマーケティングを担当していました。VDI 1.0では、企業が主体的にVDI環境を構築しなければなりません。それらは図1のように複雑な技術層で構成されており、それぞれ個別にインストールし、設定を行うのですが、それだけで1ヶ月は必要でした。また、どこかの層に新しいパッチが提供されたら運用担当者はそれを適用してメンテナンスし、それがひと段落したと思ったら別のパッチが来る、と、ひたすらVDI環境の面倒を見ることに忙殺されていました」



しかし、コストと複雑さのために普及が進まなかったVDI

ただ、最初に市場に登場した当時のVDIには致命的な欠点がありました。それはどのソリューションも高額なコストを要することと、テクノロジーが高度で複雑なことです。

そのために企業や組織はVDIに魅力を感じつつもなかなか導入できませんでした。理由は、一般的なPCを導入するのに比べてコストが割高で、企業内で運用するには技術もかなり複雑だったからです。

ピーターソン氏は、このときのVDIテクノロジー

ハイブリッド型次世代VDIソリューション「Workspot」の誕生

しかし今日、テクノロジーはサービスで提供される時代です。たとえば、営業支援システムの世界では、オンプレミス型のSiebelからSaaSのSalesforce.comへと主流が移りました。そこで、ピーターソン氏やCitrixでXenApp & XenDesktopのゼネラルマネジャー、VMwareで当初からVDIを担当していたエンジニアなど、VDI 1.0にジレンマを抱いていたメンバーが集い、立ち上げたのが「Workspot」という企業であり、ソリューションでした。同氏は語ります。

「VDIをサービス化し、企業の皆さんにこのテクノロジーをとにかく簡単に使ってもらいたいという思いでした」

そのような背景で誕生した「Workspot」は、ハイブリッド型次世代VDIソリューションと呼ばれています。VDI技術層のうち、ロードバランサー、コネクションブロッカー、データベース、Webベースの管理コンソール、プロビジョニングサービスなど、複雑な

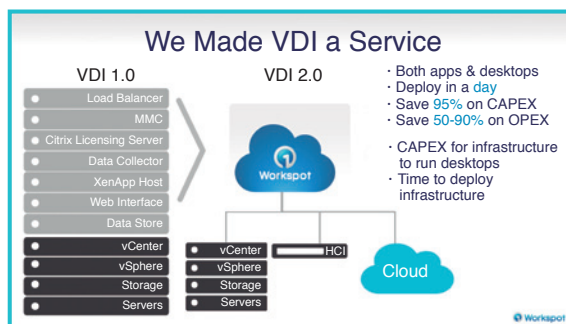


図1 VDIテクノロジーの複雑な部分をクラウドへ移行

コントロールプレーン部分をクラウドへ移行、企業のVDI担当者を運用管理から解放しました(図1)

また、「Workspot」のコントロールプレーンは設計時からマルチテナントでのクラウド稼働を前提に最適化されており、オンラインサービスに適したステートレスマイクロサービスを採用しています。このテクノロジーについてピーターソン氏はこう語ります。

「あるリクエストがやってくると、1つのマイクロサービスが立ち上がり対応、処理が終わればそのマイクロサービスも消えていきます。100万のリクエストがやってくれば、100万のマイクロサービスが対応、たとえあるマイクロサービスに障害が発生しても、すぐに別のマイクロサービスが立ち上がりそれを代替するため、全体としては支障なく稼働を続けます。そこが従来のアーキテクチャをクラウドに載せただけのVDI 1.0とは異なる点です」

一方、サーバ、ストレージ、仮想インフラなどのデータプレーン部分については、3つの選択肢を用意。今までどおり3階層の物理システムとして構築することもできれば、この部分をハイパーコンバージドインフラで構築したり、パブリッククラウドを選択することもできます(図2)。

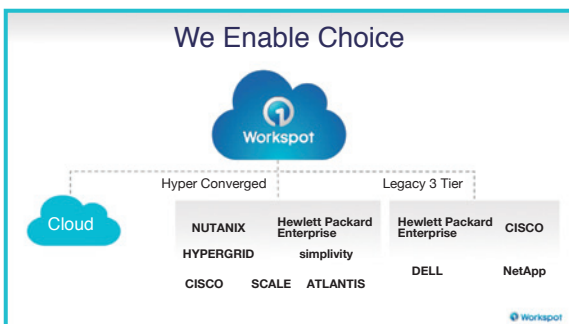


図2 データプレーンには3種類の選択肢があり、それを混在させることも可能

そのため、たとえば、本社ではデータプレーンを物理システムで構築し、海外支社はパブリッククラウドを選択するといった柔軟な構成を取ることが可能です。

「Workspot」がハイブリッド型と呼ばれるのも、コントロールプレーン、データプレーンが分離でき、データプレーンに多様な選択肢が持てることから来ています。

さらに、データが格納されているデータプレーンはユーザーの働く拠点ごとに構築できるため、東京のユーザーは東京のデータプレーンに、ロンドンのユーザーはロンドンのデータプレーンにアクセスでき、すべてのユーザーがストレスを感じない快適なVDI環境を実現可能です。

海外で続々増えている「Workspot」ユーザー

「すでに海外では、多くの「Workspot」ユーザーが誕生し、そのメリットを享受しています。

たとえば、カナダの法律事務所Chaitons LLPでは、Citrix XenAppをオンプレミスで導入していました。しかし、日々のメンテナンスに問題を感じていた同社は、「Workspot」とハイパーコンバージドインフラに移行。これによって、複雑な法律業務アプリケーションを弁護士に対してBYOD環境で提供できるようになりました。それとともに、IT担当者がVDIのメンテナンスから解放され、より価値の高いプロジェクトに時間を割けるようになりました。

一方、モーションコントロールシステムなどを製造する米国のHydradyneは、33か所に広がる製造拠点に対し、ユーザーの必要に応じて15種類ものアプリケーションを提供する必要がありました。そこでIT部門は「Workspot」とハイパーコンバージドインフラを選択、VDI 2.0を実現しました。効果として、企業所有のIT資産を削減でき、高速でセキュアなモバイルアクセスも実現。新しい社員も迅速に生産性高く働けるようになりました。

医療機関での事例もあります。米国のHouston Eye Associatesでは、700名の従業員にはデータプレーンを3階層の物理システムで、数千名のパートナーにはパブリッククラウドで提供。その結果、新しいデバイスのセッティングが簡単にスピーディーに行えるようになりました。また、プリンタやUSBデバイスとの接続問題に悩まされなくなっただけでなく、システムパフォーマンスも向上したのです。

ハイパフォーマンスコンピューティングの分野でも、米国のCAD開発会社が「Workspot」とPanzuraというグローバルファイルシステムを組み合わせ、ユーザーのデスクトップデバイスがどこにあっても、CADデータを同期して利用できるという仕組みを作り上げています。」

こうしためざましい成果もあって、2016年8月、米国ラスベガスで開かれたVMwareのテクニカルカンファレンス VMworldで、「Workspot」がVirtual Desktop and App Delivery部門でGold Awardを獲得しており、市場から評価されています。

VDIテクノロジーを熟知しているSCSKの活躍に期待

日本においては、今後SCSKが「Workspot」を展開していきます。ピーターソン氏に市場への期待を語っていただきました。

「日本市場およびSCSKには非常に期待しています。彼らはVDI 1.0の時代からこの分野のテクノロジーに精通しており、パブリッククラウドの分野でもIBM Bluemix、IIJで同社とすばらしい関係を構築しています。もちろん、3階層システムやハイパーコンバージドインフラにも熟知して、それらのベンダーとも良好な関係を築いています。SCSKのような企業がこのソリューションを日本に展開してくれることで、日本企業のコスト削減、エネルギー有効活用、在宅勤務、BYOD推進にお役に立てるでしょう。今、日本では働き方改革に注目が集まっていると聞いていますが、「Workspot」が日本の国全体にとっても大きな利益になると考えています」

SCSK SCSK株式会社

ITエンジニアリング事業本部 エンタープライズ第一部
東京都江東区豊洲3-2-20 豊洲フロント
TEL : 03-5859-3005 E-mail : workspot-sales@ml.scsk.jp
http://www.scsk.jp/sp/workspot/

※ 記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
※ 記載製品の仕様は予告なしに変更される場合があります。
※ 記載の内容は2017年7月のものです。

Workspot, Inc.
Vice President of Marketing
Brad Peterson